



1. 施設全景(空から)。2. レセプションよりラウンジを望む。3. 会議棟・滝・修景池。4. 全景。5. 会議棟内部。6. 会議棟内回廊。7. ラウンジ内部。8. テラス。

万国津梁館

Bankoku shinryoukan

■ 施設概要

| | |
|------|--------------------------|
| 建築主 | 沖縄県 |
| 所在地 | 沖縄県名護市字喜瀬部瀬名原 1792 |
| 敷地面積 | 25,457.11 m ² |
| 建築面積 | 2,422.14 m ² |
| 延べ面積 | 3,370.50 m ² |
| 構造 | RC造、一部S造 |
| 階数 | 地上2階、地下1階 |
| 最高高さ | 11.95m |
| 駐車場 | — |
| 竣工 | 2000.3 |

■ コンセプト

沖縄県におけるリゾートの重点整備地域として位置づけられた部瀬名地域に立地する本施設は、「リゾートとコンベンションの融合」「人と自然との対話」をテーマに、沖縄の自然と周辺環境に親和、融合する施設造りを目指した。

三方海に囲まれた敷地特性を積極的に活かすよう、敷地の高低差を利用した重層的な施設配置とし海へのパノラマ的眺望の確保に配慮した。

施設群を伝統的民家や集落をイメージした赤瓦屋根の低層の集合体(分棟型)とし、各棟間に修景池、滝、植栽帯等を配置することにより、各棟の有機的な空間連携、機能・動線の明確化、ヒューマンな空間の演出に配慮した。

沖縄の伝統的民家では軒を深くし、強い日差しや雨を遮る雨端(アマハジ)と呼ばれる空間がみられる。本施設でもテラスや回廊を設けることで強い日差しや雨を遮ると共に積極的に風と光を取り込めるよう配慮した。